

深圳レポート

2020年中国のマスク産業における製造企業の分布状況分析 中国のマスク産業市場規模と医療用マスク製造企業の分布

ポイント：

- 浙江省の医療用マスク製造企業は全体の20%以上を占める
- マスクの分類と医療用マスク製造企業の分析
- 中国の一部の医療用品製造企業の状況分析

参照サイトURL：

<https://bg.qianzhan.com/report/detail/300/200312-31a31909.html>

浙江省の医療用マスク製造企業は全体の20%以上を占める

covid-19流行の影響を受けて、感染拡大期間に、防護物資に対する需要は増加し、特にマスクに対する需要が劇的に増加した。マスクメーカーの生産再開に伴い、中国でのマスク生産量は徐々に増加している。

データによると、2020年2月11日までで、中国国内にはマスク製造企業が4,018社存在している。その中で、浙江省には889社のマスク製造企業があり、全国マスク製造企業数の20%以上を占めているのである。山東省には588社のマスク製造企業があり、国内で2番目にランクされている。江蘇省では436社のマスク製造企業があり、国内で3番目にランクされている。

地域分布を見ると、中国の国内マスクメーカーは主に中部および東部の沿海地域に集中している。そのうち、浙江省、江蘇省、山東省の3つの華東沿岸都市の企業数は、国内全体マスク製造企業数の47%を占めているのである。

截至2020年2月11日中国内地各省市口罩生产企业数量统计情况



资料来源：前瞻产业研究院整理

@前瞻经济学人APP

截至2020年2月11日中国内地各省市口罩生产企业数量统计情况



资料来源：前瞻产业研究院整理

@前瞻经济学人APP

▲2020年2月11日時点の、
中国各省市のマスク生産企業数に関する統計
出典：前瞻産業研究院

マスクの分類と医療用マスク製造企業の分析

マスクの主なタイプは一般的なマスク、医療用マスクと機能性マスクである。医療用マスクは使い捨ての医療用と手術用マスク、標準医療用防護マスク、N95マスクに分類される。covid-19感染拡大の中、需要が最も大きいのは医療用マスクとなっている。

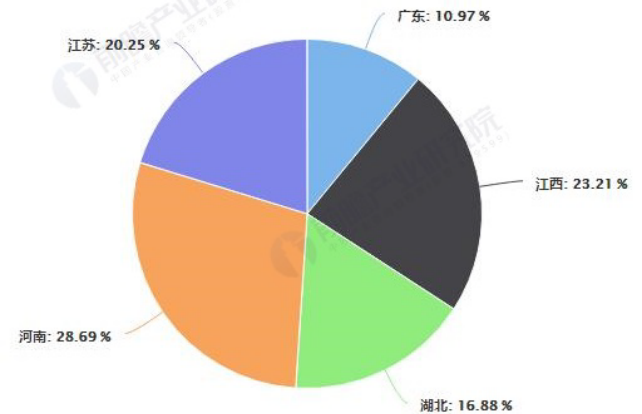
マスクタイプの分析

種類：一般的なガーゼマスク
民間用であり、繊維類に属する
分析：一般的なガーゼマスクは、機能的ブロック効果があり、防寒、保温、通気性が良く、大きな粒子を阻止できるが、防塵防菌の効果はない。
種類：医療用マスク（3種）
1：使い捨ての医療用マスク
分析：マスクのフィルター材料として2層の不織布を採用し、主に医療従事者が病原体を吸入するのを防ぎ、花粉などの病原性微生物以外の粒子を阻止して保護する。
2：標準医療用防護マスク
分析：マスクは3層で、外層には水滴がマスクに入らないようにする防水効果がある。中層はフィルタリングの役割を果たす。内層は口と鼻に近く、吸湿性の効果がある。フィルター構造は一般的にバクテリアやウイルスに対する強力な保護を備えた材料として極細繊維を使用している。
3：N95マスク
分析：Nは耐油性がないことを意味する。つまり、マスクは油性粒子を長期間阻止することができない。95は、マスクを着用した際、3マイクロメートルの体積の空気中の粒子、ほこり、微生物などの非油性粒子の濾過率を95%以上達成できることを意味する。
種類：機能性マスク（2種）
1：活性炭マスク
分析：活性炭は黒色粉末、粒状または丸状の無定形多孔質炭素で、主成分は炭素であり、少量の酸素、水素、硫黄、その他の物質も含まれている。エアフィルターマスクとエアサブライマスクの2つのカテゴリに分かれている。アンチウイルス、脱臭、バクテリアろ過、ダスト抑制の効果がある。
2：PM2.5マスク
分析：防塵マスクの一種で、PM2.5マスクとは、PM2.5の微粒子を効果的にろ過できるマスクのこと。一般に3層で構成されている。表層は織布、中間層は濾芯、内層は純綿織布。スモッグ、ウイルス、バクテリア、チリダニ、花粉、その他の小さな粒子など、空気中に隠された粒子を効果的にろ過できる。

▲出典: 前産産業研究院

全国で4,000社余りのマスク製造企業の中で、主に河南省、江西省、湖北省、江蘇省、広東省などの地区に分布しており、医療用マスク製造許可証を持つマスク製造企業は353社のみである。

中国具有医用口罩生产许可证企业分布情况



资料来源：前産産業研究院整理

@前産 経済学人APP

▲中国の医療用マスク製造許可証を持つ企業の地区分布状況
出典: 前産産業研究院

現在、医療用マスク製造業界にはすでに上場している企業が数多くあり、代表的な企業としては、「奥美医療」、「藍帆医療」、「魚躍医療」、「欣龍ホールディングス」などがある。covid-19感染拡大の中、他の製造業界の多くの企業も、マスク製造に参入するために企業改革や開発することを表明している。

中国の一部の医療用品製造企業の状況分析

会社名	主な商品
奥美医療	使い捨て医療用マスク、医療用手術用マスク、N95マスクなど
藍帆医療	医療用防護手袋とマスク
魚躍医療	医療用マスク
仁和製薬	N95マスク
欣龍ホールディングス	マスクを製造するための高効率不織布メルトブローンフィルター材料、医療外科用防護服用のSMS不織布医療用防護材料の製造
尚榮医療	医療用ナノ抗菌および抗ウイルス複合材料、使い捨て外科用バッグ、使い捨て手術服、医療用防護服など
振徳医療	医療外科用マスク、使い捨て医療用マスク、医療用保護マスク、日常防護マスク
際華国際	医療外科用防護服、医療用マスク

▲出典: 前産産業研究院

リサイクルボックス感覚で、中古スマホを売却

社名	広州緑怡信息科技有限公司	英語名	1zhanshou Co. Ltd.
代表者	廖偉権	URL	https://www.1zhanshou.com/
所在地	広州市越秀区水荫路 117 号星光映景 15 層 01 单元		
売上 (RMB)	N/A	従業員 (人)	50 以下
創業年	2013.09.30		
資本金 (RMB)	178 万 (約 2,300 万円)		
サービス内容	中古スマホを AI ロボットで検査測定、O2O モデルを販売		



欧米諸国での中古スマホのリサイクル率は約50%で、中国でのリサイクル率は2%以下。このギャップを埋めるためには簡単にリサイクルができる環境が必要であると考え、同社はAI技術を用いて、スマホの自動検出、リサイクル機能を備えた中古スマホリサイクルロボット「EPBox」を開発した。

画像認識機能:同社のディープラーニング技術により、投函された中古スマホがどのメーカーのものか、また真贋鑑定が行える。約50の項目から査定をすることができ、メジャーなスマホであればほぼ判別することが可能。

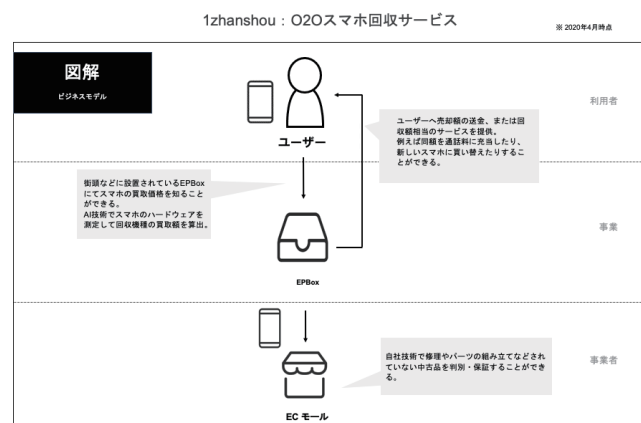
価格判定アルゴリズム:中古スマホの一般的な問題をすばやく分析し、買取価格を算出することができる。

回収した後は「第三者にて修理を行っていない」を承認すれば、自社ECプラットフォームで販売する。

■業界ポジション:中国初のAIスマホ回収プラットフォーム

2016年に金沙江ユニコーンキャピタルなどから累計1億元(約15億円)以上の投資を受けた。そして同社最大の強みは中国の三大通信事業者と提携している点である。

同社の看板製品であるリサイクルロボットEPBoxは中国初の無人スマホ回収プラットフォームであり、同社の知的財産である。



国内に約2,000台のEPBoxを配備し、日本やオーストラリアなど海外に15台を配備している。

2019年からリサイクル事業は黒字化し、12月の月間リサイクル量は22万台を超えた。

同社の強みとしては以下の点がある。

スタンダード化:従来の手作業と比較するまでもなく、ロボットは統一された手順で検査を行う。

正確・スピーディー:「液晶がオリジナルかどうか」「小さなキズ」など、肉眼では検出できないような小さなポイントをすばやく正確に検出することができる。

セキュリティ:スマホ中古市場でよくあるデータ悪用などの課題を解決するため、回収したスマホは同社がデータ削除を行なっている。

コスト削減:プロセス全体が自動化されているので、人間が基本業務をする必要がない。

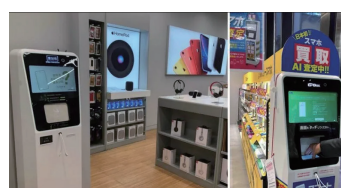
上記強みと万全の提携関係を武器に、中古のスマホ取引プラットフォームで強い競争力を誇っている。



▲EPBox



▲Mini EPBox



▲日本EDIONに進出



▲WeChat
公式アカウント



▲回収の様子

新たな「政策拉動」

中国の経済関連のニュースでよく見られる言葉が「政策拉動」である。文字通り、政策を動かすことにより経済効果をもたらすという意味で、日本語で言えば、「政策効果」に近い意味であろう。

中国で新型コロナウイルスの感染拡大を防止する為に、武漢を封鎖したばかりのころに問題となったマスク不足を解決するため、中国政府はマスクの製造業者に資金面、税制面、行政許認可面等での優遇政策を発表した。その結果、2月から雨後の筍のように、マスク製造業者が増え、製造設備メーカーから、マスクの原材料である不織布、紐、箱等の関連業者、販売業者、通関業者等に至るまで、一時は「マスク・バブル」の状態であった。マスクだけではなく、非接触式体温計、防護服等の医療用機器業界全体が政策の恩恵を受けていた。

深圳の場合、今年1月-3月までの第一四半期で、バイオ医薬関連会社の新規設立は2,808社で、前年同期比43.9%増であった。また、卸売小売業界では医療機器、マスク、防護服、消毒液、体温計等の感染症予防関連の会社は同208.2%増となっている。この優遇政策は内需及び輸出を含め、かなりの経済効果をもたらした。

更に今話題になっている「政策拉動」があるのだが、それが電動バイク、電動自転車のヘルメット着用義務化政策である。中国公安部交通管理部門が今年6月1日から全国においてヘルメット不着用を厳しく取り締まるという政策を発表した。それを受けて、各地方政府も取締りに関する細則を打ち出している。

インターネット上の数字によると中国の電動バイク・電動自転車の保有台数は3億台で、実際にヘルメットを利用している割合は30%だそう。この計算だと残りの70%がこれから購入することになり、一般家庭の場合は一家当たり最低でも2個必要の場合が多いと予想される。単価が100人民元だとしても百億人民元を超える市場が一夜で形成されたことになる。



※5/20 公安部 交通管理局の発表によると、ヘルメット不着用による罰金は電動バイクが対象で、電動自転車はその対象から外れている。

唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司
副總經理

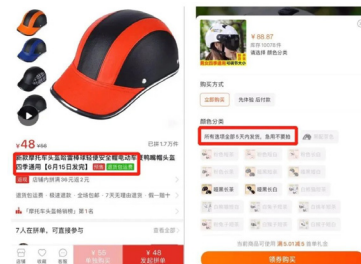
姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。

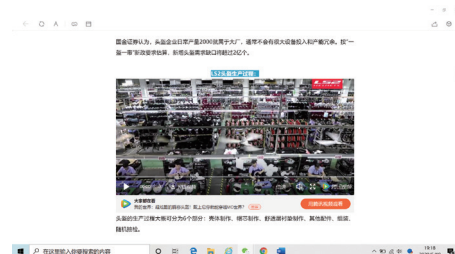


左下記のグラフはWechatの検索指数であるが、「ヘルメット」という検索用語が4月17日は367,258であったのに対し5月以降5,135,484まで伸びている。

Tモール、JDモールでヘルメットを検索してみると上位ランキングの店舗の5月に入ってから販売数量は、前の数ヶ月に比べると数倍増えている。在庫が不足し、予約販売となっている商品もあり、一過性の特需となっていることは間違いない。



この政策により、ヘルメット製造関連の設計会社・金型会社、原料の樹脂関連会社は連日生産強化をしており、新規参入会社も続々と増えている。



ヘルメット業界への投資参入情報も増え、政策による経済効果は確かである。

マスク、ヘルメットの次にまたどのような「政策拉動」の政策が生まれるのか、気になるところである。ただ、このような政策発表は得てして突然であり、社会主義国の中国だからこそ即刻施行できるのだ。

5/22から北京で開催される「两会」で発表される産業デジタル化、5Gの普及、データセンター等の新型インフラ建設（新基建）等の国策に関わる政策にも注目したい。

（レポートは2020年4月21日現在の情報）



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>